

英語活動・英語委員会

1 研究テーマ

こども達が、英語や異文化に対して興味・関心を高めながら、意欲的に取り組む英語活動はどうあったら良いか。

～コミュニケーション能力を高める場の設定のあり方～

2 研究課題

- (1) 子どもたち同士が自然とコミュニケーションできる場面と学習内容の工夫。
どのようにしたら、子どもたちが自然とコミュニケーションを取ることができるのかを研究し、その場面と学習内容の工夫を検討する。
- (2) 子どもたちが「言いたい・したい」ことを学習活動に取り入れる工夫。
子どもたちが意欲的に英語学習に取り組めるように、さまざまな学習活動を工夫する。
- (3) 中学校との連携をふまえ小学校段階の英語活動でどんな学習活動を行うのか検討。
中学校の英語教育と小学校の英語教育の関連をどのようにしたらよいか、実際に中学校と小学校が話し合う機会を持つ。

3 授業の実際（本時を中心に）

英語の授業を3つの大きな枠に分けて考えた。

この3つを大切にしながら、授業を構成するように考えた。

< 研究授業 >

期日 平成19年11月 7日（水）

授業学級 栗ヶ丘小学校 6年2組 授業者 山戸 純江教諭

（2年2組 授業者 山田 朋子教諭 短縮授業）

単元名 「IDカードを探そう」（おばけちゃん - 色と果物 - ）

表現との出会い（状況設定）の場面

A. 学習する表現を、実際の場面に近い状況で設定する。

今まで学習したさまざまな表現を全部使ってコミュニケーションをとるような状況を設定した。

B. 音声表現だけでなく、視覚的な補助をする。

黒板にさまざまな例を、提示し分かりやすくしていた。

C. 本時のダイアログを使用する必然性のある場面を設定する。

IDカードが必要な場面を設定し、そのカードを探すという状況を設定した。

練習の場面

D. 必要な練習を変化のある繰り返しで行う。

Do you have ~? Are you ~? Can you play ~?などの表現を繰り返して練習した。

E. ジェスチャーや体を動かしながら声を出すようにする。

担任とAETがジェスチャーを交えて、会話を展開した。

- F. ゲームを通して繰り返し言う場面を作る。
誰の ID カードか当てるという状況でゲームを行った。
コミュニケーション活動の場面
- G. ゲームの中でコミュニケーションをとる必然性を作る。
誰の ID カードか当てるというゲームをすることによって、コミュニケーションの必然性が生まれた。
- H. 最初に聞いて動く活動をたくさん行う。
始めに、担任と AET のやりとりを聞いて、状況を理解した。
- I. 大勢の友達とコミュニケーションする場面を作る。
グループになって、ゲームを行い、たくさんのコミュニケーションをとれるように促した。
- J. 自分の聞きたい事、伝えたい事を話題にする。
答えを当てたいという気持ちが、意欲的なコミュニケーションを生んでいた。
- K. グループ活動でお互いに相談できる場を作る。
難しい場面は、日本語で相談するなど、理解しないで進まないようにした。
- L. 質問するヒントとなる視角情報を与える。
会話の例を黒板に貼っておくことによって、会話の仕方を忘れた場合でも、黒板を見れば、理解できるように工夫した。

4 この事例で明らかになったこと

表現との出会い（状況設定）は、英語活動において、とても大切であることが分かった。この会話をどんな状況で使うかということを理解すると、コミュニケーションへの理解がより深まって、自然と会話が生まれてくる姿が見られた。

練習の場面においては、単語、ダイアログなどを含めて、十分に練習することが必要であるということが分かった。単語、ダイアログは、覚えなくてもよいという考え方があるが、この研究を通して、十分な練習をしたほうが、子どもたちが自信を持ってコミュニケーションできることが確認できた。やはり、一定の練習は必要ではないかという結論になった。

コミュニケーション活動の場面では、ゲームの必然性を作ったり、グループで相談できる場を作ることによって、コミュニケーションを楽しくできる場面が生まれた。子どもたちにとって、英語でのコミュニケーションは難しい場面も多いので、ゲームの場面でも多くの支援を必要とすることが分かった。

5 その他

- ・ 郡内の小学校の英語活動を中学校との連携を踏まえ、どのようにしていくのか考えていく必要がある。本年度は、郡内でどの程度、行われているか実態調査をした。それによると学校によって、取り組みに差がみられた。今後、郡全体として、どのようにしていくか話し合う場を持つ必要性を感じた。